

長沢川

夏休み突入号

瀬田北小学校 学校だより
NO. 5 令和8年7月17日
校長 藤井 一彦(文責)
児童数 1145名

盛夏の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、本日で1学期を終え、明日から夏休みとなります。子どもたちは日々の学習や行事を通して、大きく成長することができました。これもひとえに、ご家庭や地域の皆様の温かいご支援の賜物と心より感謝申し上げます。引き続き本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

さて、今年度発足致しました、学校支援サポーター活動「せたきたヌキ会」の第2弾として、6月5日(金)～7月10日(金)の毎週金曜日に児童用トイレ仕上げ掃除をお願いしたところ、のべ10名のサポーターの皆様方にご協力いただくことができました。誠にありがとうございました。大変好評につき、2学期以降も継続致します。夏休み中に募集致しますので、ご協力をお願いします。

【子どもを元気にする 「なぜ？」の大切さ】

ある理科の授業のお話。先生が筒型の空気鉄砲で球を飛ばす演示をした。勢いよく、教室の隅まで飛んでいく。それを観た子どもは、「やりたい」と集まってくる。ところが、やってみると、1メートルも飛ばずに玉が落ちる。違う子がやってもやっぱり落ちる。でも、先生がすると、教室の真ん中まで飛ぶ。

「どうして、先生は飛んで、僕たちは飛ばないのか？」と子どもは試行錯誤する。このとき、子ども達の目はキラキラと輝き、元気そのものである。逆に、ある算数の授業のお話。分数の割り算の授業で、ある子が $1 \div 2 \div 3 = 3 \div 2 = 1.5$ と教わったときに、「割り算なのにどうして答えが増えるんですか」と先生に質問した。するとその先生は、「そんなことは考えなくていい。分母と分子をひっくり返してかければ答えが出る。早く問題を解きなさい」と言った。子どもの目は輝き、元気になるのでしょうか？子どもの元気の源は、「なぜ？」と疑問を持つことではないかなと思っています。

【子どもの元気を奪うその一言】

ある子どもが、お父さんから「のどが渴いたから、コップに水を入れてきて」と頼まれた。その子は喜んで水を入れ、さらに「飲みやすいように」と考え、ストローをさして渡した。ところが、お父さんは「余計なことをするな」と言い、ストローを捨ててしまった。その子は悲しくて泣き、それ以降、お父さんの頼みごとをしなくなってしまう。せっかく相手のことを思い、自分なりに考えて行動したことが、「余計なこと」と言われてしまうと、その気持ちごと否定されたように感じてしまいます。子どもがどのような思いで行動したのか、その気持ちを受け止めてあげることが大切です。そうすることで、子どもは安心し、意欲や元気を保つことができます。また、別の場面では、お手伝いをしようとして、一度にたくさんのお皿を運ぼうとした結果、落として割ってしまうこともあるでしょう。そのときに「だから言ったでしょう」と叱るのか、それとも「割ってしまったお皿はどうしたらいいかな」と問いかけ、次の行動を子ども自身に考えさせるのか、対応の仕方は大きく異なります。単に失敗を責めるのではなく、その後どのように解決していくかを一緒に考えることで、子どもは失敗を恐れずに前に進む力を育てることができます。「だから言ったでしょう」という言葉は、子どもが自分で考えて解決する力を弱め、意欲を失わせてしまう可能性があります。

夏休みは、子どもが一回り大きく成長するよい機会です。ぜひ、子どもの「なぜ？」を引き出すような経験をさせてあげてください。そして、すぐに手を出すのではなく、試行錯誤する時間を大切にしてください。また、ご家庭でのお手伝いにも積極的に取り組ませていただきたいと思います。一生懸命取り組んだ結果の失敗は、決して叱るのではなく、その解決方法を一緒に考え、次への意欲につなげていけるようご協力をお願いいたします。2学期に、さらに成長した子どもたちと出会えることを楽しみにしております。

1学期を振り返って

		
1年生 初めての給食	避難訓練	校内音楽会
		
のびやかスポーツタイム	学習参観	体力テスト
		
1年校外学習～一里山公園～	2年町探検	3年校区探検
		
4年校外学習～公共施設～	5年校外学習～オーパル～	6年校外学習～奈良～

【夏季休業中（夏休み中）の学校について】

- ・学校への電話連絡については、午前8：30～午後4時30分をお願いします。
- ・学校閉校期間は、8月7日（金）～8月17日（月）です。学校閉校期間中の緊急連絡（命の関わる等）は、大津市役所（077-523-1234）をお願いします。